

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用を 12 月 16 日から開始します

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

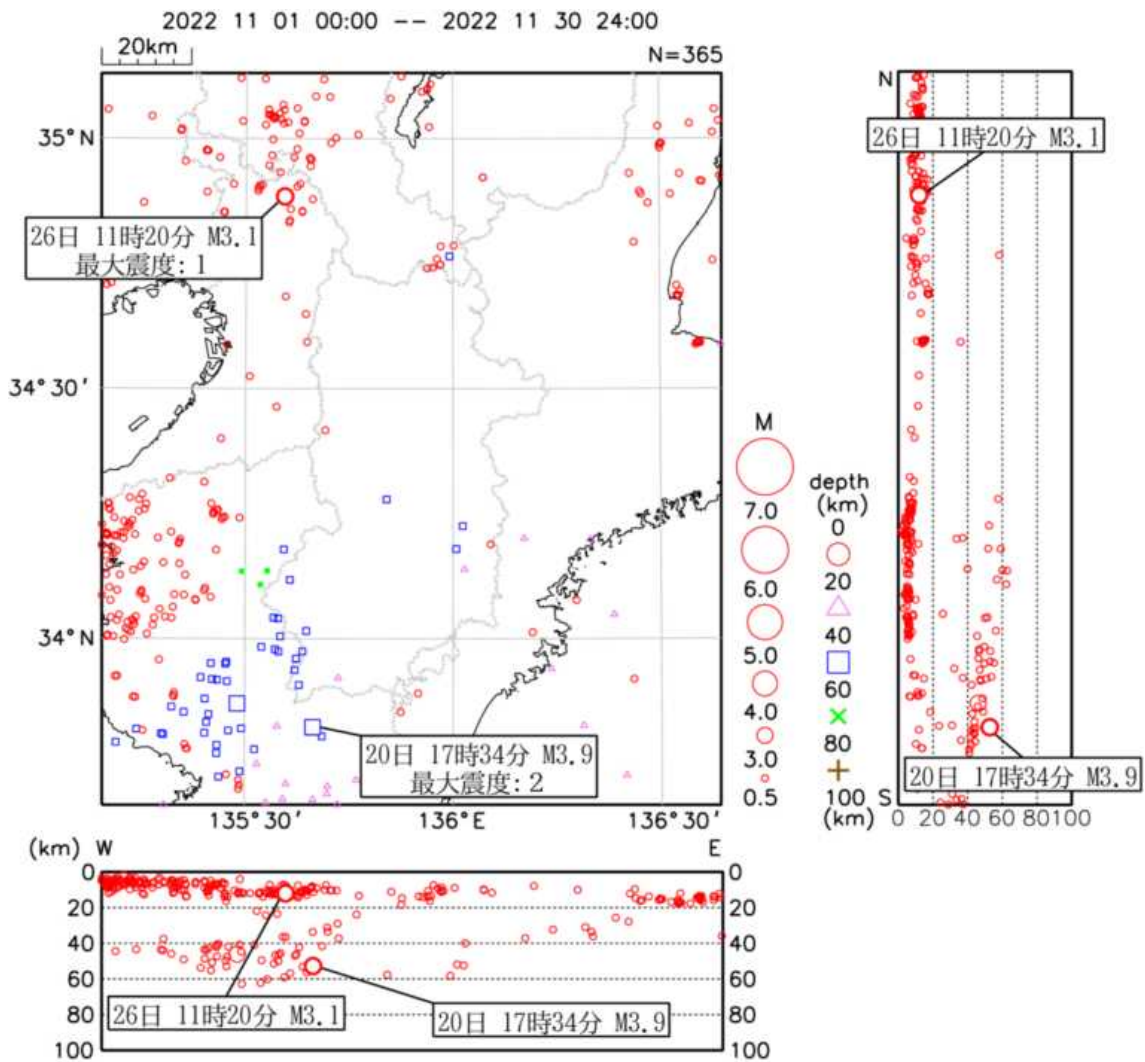
奈良地方気象台

2022 年 11 月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

20日 17時 34分 和歌山県南部の地震（深さ 53km、M3.9）により、宇陀市で震度2を観測したほか、三重県、奈良県、大阪府、京都府、和歌山県で震度2～1を観測しました。

26日 11時 20分 大阪府北部の地震（深さ 12km、M3.1）により、大和郡山市で震度1を観測したほか、大阪府、京都府で震度1を観測しました。

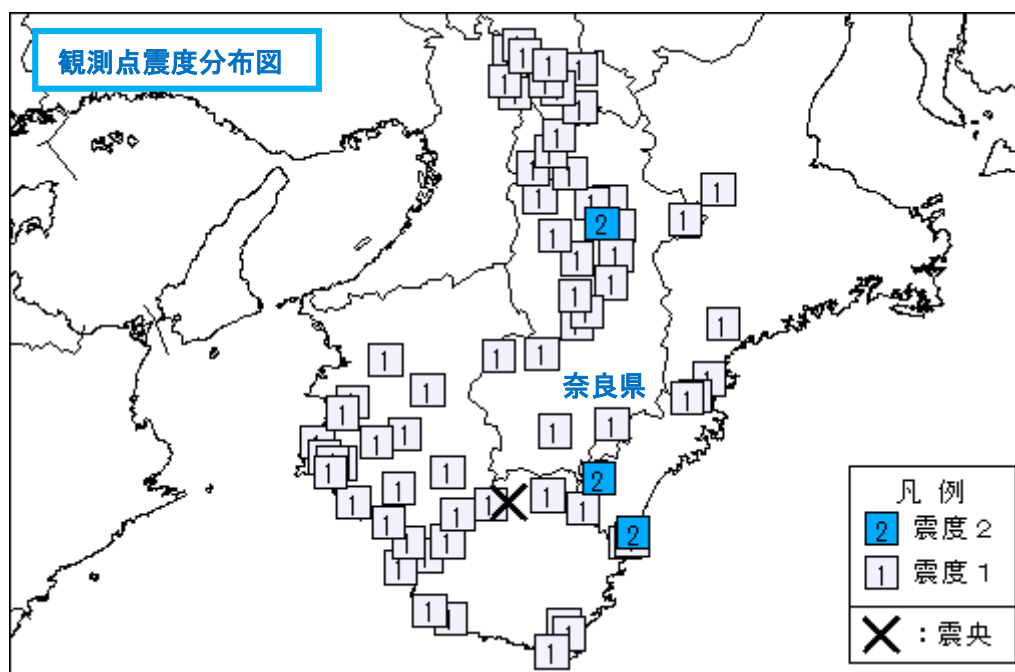
【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2022 年 11 月 20 日 17 時 34 分	和歌山県南部	33° 49.3' N	135° 39.7' E	53km	M3.9
震度 2 : 宇陀市大宇陀迫間 *					
震度 1 : 奈良市二条大路南 *, 大和郡山市北郡山町 *, 天理市川原城町 *, 桜井市初瀬 五條市大塔町辻堂 *, 斑鳩町法隆寺西 *, 御杖村菅野 *, 高取町観覚寺 * 広陵町南郷 *, 吉野町上市 *, 黒滝村寺戸 *, 天川村洞川, 天川村沢谷 * 野迫川村北股 *, 十津川村小原 *, 下北山村寺垣内 *, 奈良川上村迫 * 東吉野村小川 *, 宇陀市菟田野松井 *, 宇陀市榛原下井足 *					
2022 年 11 月 26 日 11 時 20 分	大阪府北部	34° 53.0' N	135° 35.6' E	12km	M3.1
震度 1 : 大和郡山市北郡山町 *					

* 印は地方公共団体等の震度観測点です。

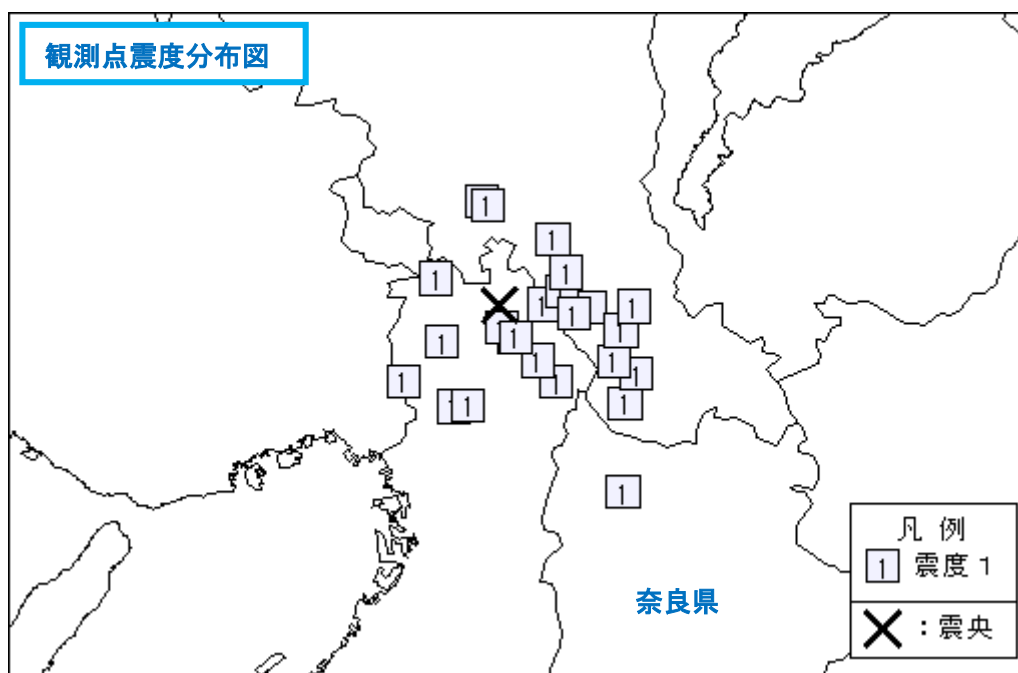
【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

2022 年 11 月 20 日 17 時 34 分 和歌山県南部 33° 49.3' N 135° 39.7' E 53km M3.9



2022 年 11 月 26 日 11 時 20 分 大阪府北部

34° 53.0' N 135° 35.6' E 12km M3.1



【地震一口メモ】

～「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用を12月16日から開始します～

中央防災会議（9月30日）において、国の日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進基本計画が変更され、この中で、気象庁において後発地震への注意を促す情報発信を行うことが新たに盛り込まれました。日本海溝・千島海溝沿いの領域では巨大な津波を伴う最大クラスの地震が切迫しており、これに加えてこの領域ではM_w（モーメントマグニチュード）7クラス以上の地震が発生した後、数日程度の短い期間においてさらに大きなM_w 8クラス以上の大規模な地震が発生する事例も確認されています。本情報は、極めて不確実性が高い情報であるものの、巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、後発地震への注意を促す情報の発信が必要です。注意を促す対象エリアは最大クラスの地震により巨大な津波と強い揺れが想定される北海道から東北・関東地方の対象市町村で奈良県には直接的な関係はありませんが、以下にこの情報の概要を紹介します。

・情報の発信

下図に示す巨大地震の想定震源域とそれに影響を与える外側のエリアでM_w7.0以上の地震が発生した場合、内閣府及び気象庁の合同記者会見により行う。

・対応をとるべきエリア

内閣府で検討された巨大地震モデルで、高さ3m以上の津波または震度6弱以上の揺れが発生すると想定される地域を基本とする。

・防災対応を呼びかける期間

一週間と設定する（当該期間を経過した後も、大規模地震の発生の可能性がなくなったわけではない）。

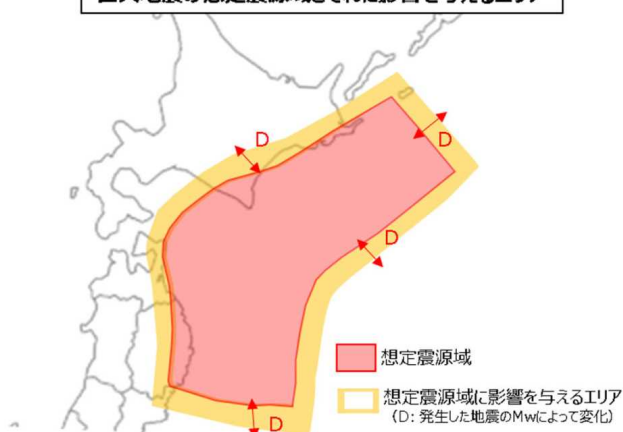
・防災対応

後発地震が必ず発生するわけではないことを踏まえ、社会経済活動を継続した上で日頃からの地震への備えの再確認に加え、直ちに避難できる態勢を準備することとする。国や自治体からは、事前避難をよびかけることはしない。

・情報発信の頻度

概ね2年に1回程度と想定される。

巨大地震の想定震源域とそれに影響を与えるエリア



【参考】内閣府：日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策

https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/index.html

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去6年間程度分掲載しています。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

